

英語科学習指導案

指導者 菅生賢一

1. 日時 平成24年7月6日(金) 2校時

2. 学級 2年3組 男子15名 女子15名 合計30名 南校舎4階

3. 主題 PROGRAM 3 Charity Walk (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

4. 主題について

本単元は、武史とウッド先生がチャリティーをテーマに会話し、興味を抱いた武史が学校で何か企画することができないかと考える場面である。チャリティーとは、慈善の精神から行われる活動や団体のことで、その運営についても多くが寄付や自分たちの持ち出しで行われている。その対象は貧困であったりハンディキャップや高齢者を対象にしたものであったり様々である。本単元で取り上げられているチャリティウォークは、病気や飢餓で苦しむ子供たちを対象にしている。参加者がその大会に参加費を払い、自分たちも「歩く」という行動によって、ほかの人々や団体を援助している参加型のチャリティーである。盛岡でも岩手ユニセフ協会主催で震災復興支援を目的としたチャリティウォークが開催されたばかりである。ウォーキング以外にも、マラソンや他のスポーツ、コンサートなど様々な活動が行われている。ここでは、その意義について学び、この様な活動が世界中で広く行われていることを知り、武史たちのように、たとえ規模が小さくても、自分たちにも何かできないかと考える絶好の機会と考える。言語材料としては、義務や命令を表す助動詞must、必要性を表す助動詞はhave(has) to、そして自分の考えを述べるときに使うI think thatの接続詞を取り扱う。自分たちにできることは何かを考えさせ、これらの表現を用いて言ったり書いたりする活動に取り組ませたい。

本学級は、発音練習などにしっかり取り組もうとする姿勢が見られるなど積極的なクラスである。チャリティーについて多くの生徒が関心をもっており、募金活動に参加したり、実際に募金したりしたことのある生徒がほとんどである。しかし、チャリティウォークについて知っている生徒は6人、参加したことがある生徒はいない。助動詞や接続詞の学習にあたり、一般動詞の習得状況を調査した結果、get、go、send、help、joinの読み書きが完全な生徒は58パーセントであった。既習の言語材料を取り込みながら練習して新出表現の習得に努めさせていきたい。

そこで、本単元では、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1で取り扱っているリサイクル活動(ペットボトルキャップの回収がワクチンの寄付につながるという題材)やWFPのチャリティウォークに関する活動資料、ユニセフのさまざまな慈善活動に関する資料にも触れさせながら、病気、飢餓、そして貧困に苦しむ世界の子供たちを対象にしたチャリティ活動が世界中で行われていることを理解させたい。その上で、自分たちに出来ることはないかを考えさせたい。そして単元のゴールとして、慈善活動として自分たちに何ができるかを考えさせ、その考えを述べるようにさせたい。そのために、練習の機会を複数回設定してトレーニングを重ねる。そしてこの活動でもちえた自分の考えをもとに、プロジェクト「対話をつなげよう」の活動につなげていきたい。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の達成目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	
外国語表現の能力	家や学校でできるチャリティー活動には何があるかを考えて既習表現を用いて書いている。 〈生徒の記述例〉 ・自分にもできるチャリティーがあることがわかったし、英語でそれを書くことができてよかった。 ・友達の考えを聞いてなるほどと思ったし自分もやってみたい。
外国語理解の能力	
言語や文化に関する知識・理解	

7. 本時の指導構想

(1)「教えて考えさせる授業」にかかわって

【説明する】 チャリティ活動として何ができるかについての教師の考えを聞かせる。その際、次のリスニングポイントにしたがって聞かせる。

- ①誰をサポートするのか
- ②家で出来ることは何か
- ③学校で出来ることは何か
- ④その結果何が実現するのか
- ⑤使っている助動詞や接続詞は何か

さらに、このリスニングポイントが、考えるポイントとなり、と同時にライティングポイントになることを説明する。

【理解の確認】 考えるポイントを、生徒どうしの説明活動を通して確認させる。

自分の考えを書き表わすにあたって、メモを作らせ、十分に口頭練習を行わせる。

【理解深化】 ライティングポイントにしたがって自分の考えを書かせる。

【自己評価活動】 繰り返し練習することを通じて、自分の考えを英語で表わせるようになる喜びや達成感、そして今後のボランティア活動に対する意欲の高まりなどを記述できるようになってほしい。

(2)「表現させること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の3点である。

1点目は、「理解の確認」段階で生徒どうしで十分に口頭練習する活動。自分の考えを口頭で表現させ、相手に聞かせることで伝わることを実感させ、同時にエラーの矯正を図る。

2点目は、「理解深化」の段階で、口頭練習を生かして自分の考えを書かせる活動。なお、これは全員分をまとめたアイデア集として後日クラス全員に配布して読ませる。

3点目は、「自己評価活動」の段階で、本時の活動を振り返って記述させる。

8. 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価の視点・方法	教材・教具等
理解の 確認 14分	1. Dangan Input 2. チャリティー活動を想起する。	2. チャリティーウォークやバザーの内容を想起させる。	1. 本時使用する言語材料を盛り込み、ウォーミングアップとする。	1. Dangan Input シート 2. PC
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 家や学校でできるチャリティー活動を考えよう。 </div> 3. 教師の考えを聞く。 ①誰をサポートするのか ②家で出来ることは何か ③学校で出来ることは何か ④その結果何が実現するのか ⑤使っている助動詞や接続詞は何か 4. 考えるポイントをペアによって説明活動で確かめる。	3. 2段階に分けてリスニングポイントを示して聞かせる。 4. 前時の学習のながれを想起させながら次の流れを確認させる。 ①メモ（日本語） ②スピーキング ③ライティング		3. シート 4. 紙板書
理解 深化 31分	5. 自分の考えをポイントにそってメモする。 6. メモをもとにスピーキング練習する。 (1) 全体 (2) 個人 (3) ペア 7. 自分の考えをポイントにそって書く。	6・アイコンタクトを図るためにリード&ルックアップしてスピーキングすること。 7. メモにもとづいて書かせる。 【表現】（書く） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 家や学校でできるチャリティー活動は何かを考え、既習表現を用いて書いている。 </div> 〈記述内容〉 A：つなぎの言葉があつてまとまりのある内容。 C：シートから選択させる。	5. 4で確認したポイントにそって考えさせる。 6. 聞く人は聞き返しなどをしながら聞く。	5. シート 7. シート
自己 評価 活動 5分	10. 自己評価する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> ・自分にもできるチャリティーがあることがわかったし、英語でそれを書くことでよかった。 ・友達の考えを聞いてなるほどと思ったし、自分もやってみたい。 </div> 11. 次時内容を知る。			10. シート